

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

| | |
|------------------|---|
| Title | 執筆者紹介 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学法学研究会 |
| Publication year | 1957 |
| Jtitle | 法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.30, No.7 (1957. 7) ,p.81- 81 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19570715-0081 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る。

初期の大審院判例から、まず考察をほりさげていくことは、法曹・學者にとつてとりわけ重要な意義をもっている。かつて石山彌平氏は、はやくからこのことに着目していたが、その後、中田薫博士が入會の理論を、この源泉より汲まれたのは學界周知の事實である。

この貴重な、そして今日では稀覯となつた既刊の判決録を複製・刊行する——判決原文との對校により多くのものを補ひ、完璧な姿で判決を再現して、世の人々の共有財産にする——という至難な事業に敢然とすすまれ、現在のぞみうる最良の形にまとめあげられた編集委員諸氏に對しては、後學のひとりとして畏敬の念を禁じえない。

近來、明治史攻究の氣運ようやく勃興し、その長足の進展は年をおうてめざましい。このとき、さらに「明治前期大審院民事判決録」が出現したことは、この氣運に拍車をかけるものであらう。明治初年以降における諸判例の史的遷移を精到に吟味することにより、將來、幾多のすぐれた勞作が編まれ、明治史の究明に一段のふかみを加えるにちがいない、とおもわれる。

この後世にのこる偉業のつづがなき完遂を心より希念しつつ、つたなき紹介の筆をおきたい。(三和書房刊 A4判 二八八頁 頒價二〇〇〇圓)

(向井 健)

執筆者紹介

| | | |
|-------|--------|-------|
| 田口 精一 | 法學部助教授 | 憲法 |
| 中村 洸 | 法學部助教授 | 國際法 |
| 中谷 瑾子 | 法學部助教授 | 刑法 |
| 宮澤 浩一 | 法學部助手 | 刑事學 |
| 向井 健 | 法學部副手 | 日本法制史 |
| 奈良和重 | 法學部副手 | 政治學 |